



大正琴は、その名の通り大正時代に発明された楽器です。どこか懐かしく、心に響くその音色。メンバーはそんな音色に魅せられ昭和57年、当時のJA女性部のお世話で講師の土屋先生をお招きし、大正琴のサークルを発足させました。当初は、JA女性部の活動ということで会員のほとんどは農家の主婦。忙しい農作業をちょっとだけ忘れて、琴の音色に心を癒し仲間とおしゃべりすることが、明日への活力となりました。発足後10数年をピークに、会員の高齢化、社会情勢の変化により会員数も大分少なくなりましたが、名称を『四季の会』と改め、気持ちも新たに35名の会員で練習に励んでいます。

大正琴には、ソプラノ・アルト・テナー・ベースの4種類の琴があり、一人ひとりの琴をミキサーとアンプにつないで演奏します。最新の流行歌からポピュラー・クラシック・フォーク・ポップス、また童謡・唱歌・民謡まで、幅広いジャンルを4種類の琴でアンサンブル演奏をすることができます。取材にお邪魔したこの日は、県大会に向けての最終調整に入っており「発表会が近づくと欲が出る」と、先

サークル CIRCLE ZUKAN 鑑

第36回 大正琴サークル 『四季の会』

- ①活動歴 25年
- ②年齢層 40代～70代の男女
- ③活動場所 多古町公民館
- ④活動時間 毎月第2土曜日 9:00～12:00
毎月第3土曜日 9:00～16:00
- ⑤代表者 萩原静枝 (はぎわらしずえ)
- ⑥連絡先 平山はる江 (JA 多古町指導課)
☎ 76-2240

生は微妙な音の違いも聞き逃さず、細部まで指示を出します。とても厳しい指導ですが、ユーモアを交えて熱心に取り組んでくれる先生を、メンバーはとても信頼しています。

今回の演奏曲は『月がとつても青いから』です。演奏中は、それぞれが正確なリズムを心掛けます。音を出し過ぎず、柔ら

かく合わせることで、曲の一体感が生まれてくるのです。譜面を読み、琴を爪弾き、舞台演奏での緊張感を味わうことは、脳の活性化になること間違いなしです!!

年1回の全国大会、県大会、2年毎の発表会が主な活動で、舞台衣装を身に着ければ、心も体も若返ります。この会が発足して早25年。メンバーのキャリアは異なりますが、ベテランも初心者も各自のレベルに合わせて楽しむことができるのも、大正琴の魅力です。今日まで続けてこられたのは、気の合う仲間はもちろん「家族の協力があったこと」と、感謝の気持ちも忘れません。

「音と心のハーモニー」を合言葉に、これからも楽しく活動していきたいと話すメンバー。12月には文化ホールでの発表会も予定しています。自分の心の中にある想い出にも似たその音色を、皆さんもぜひ聴きにきてください。



編集 後記

★4月のある休日のこと、田植えに行く準備をしていると「私も行く!」と小学校に入学したばかりの娘がついて来ました。それまで田植えに行く機会など全くなかったせいか、田植機の動きや音に驚いたらしく、最初は少し離れた所から様子を見ていた娘でしたが、いきなり「私も何か手伝う!」と腕まくり。田んぼに落ちては大変と、苗箱の片付けを頼んでみることにしました★ぬかるんだ農道に足をとられながら、慎重に空いた苗箱を片付け始めた小学1年生。そんな姿を見て突然周りの方から「お姉ちゃん、お手伝いできて偉いね!」の一言が。これで気を良くしたのか、娘の動きが一気にスピードUP!。そして洋服や靴の汚れなど気にせず、あつという間に任務完了!!★家でそれぞれらいやつてくれたらなあ」と心の中でつぶやきながらも、一言はめられただけでやる気を出し、積極的に手伝いをこなした娘の姿を見て、改めて子どもをほめてあげることの大切さを実感した一日でした。

★新体制となり早1カ月以上が経ちました。新しく配属となった〇〇さんは、以前同じ係で働いたことがあり、子どもも同級生。当時はプロ野球の勝敗について「あーでもない、こーでもない」と語り合っていたのが、朝のあいさつ代わりでした★几帳面でしっかり者のA型〇〇さんと、傍若無人でいい塩梅なB型の私でタッグを組んで、より親しまれる広報を作っていきたいと思います★さてさて、近頃の私といえば、新たに配属になった職場のお仲間を視界の片隅で捕らえては、人間ウォッチングを楽しんでいます。若手(私から見て)が増えて、年齢番付は西の関脇に急上昇!!★そんなお若い方々と日々交わす会話から垣間見るのはなんと『優しい夫像。職場でもとても優しく接してくれます。よその旦那さんは優しいと話すと「よその人には皆ぞうだ」と我が夫。まあ、かくいう自分もまた然り…。まずは便座の温かさぐらいを目標に、家庭で頑張ってみようと思っのんた。